10's 20's Yモード

ミュージシャン
坂本 龍一さん
壊すな

おれは、下北沢、好きだよ。下北沢だけじゃなくて、壊したらもう戻ってこないもの――時間と言ってもいいし、歴史と言ってもいいけど、そういうものってほんとうに大事なんだよ。無くしたらもう二度と戻ってこないんだよ。築地にしてもそうだから。壊すな！

（『Save the 下北沢』に寄せられたメッセージを本人の許可を得て転載）

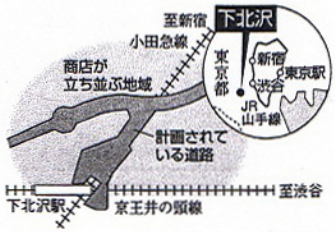
下北沢に5つの劇場を創設した本多劇場グループ代表
本多 一夫さん
説明を

これまで多くの演劇集団が公演してくれました。今回の道路建設計画では、私の運営するスタジオや劇場「ザ・スズナリ」の一部が道路にかかることになります。住民にとって必要な道路なのか、魅力のあるまちづくりになるのかなど、もっとよく住民に説明し、話し合わなければならないと思います。行政や一部の人間だけで進めていては、道路に何のメリットがあるのか分かりません。

劇作家
加藤 健一さん
好きだ

下北沢の本多劇場で25年続けて公演しています。下北沢は電車で来て、ゆっくり歩いてまわることができて、すごく好きな街です。車社会の中でこういう街は少ないし、なくしたら戻ってこない。道路建設は地元の人の合意で決めるもので、よそ者の私が反対、賛成ということは難しいですが、街なみを残してほしいですね。

若者やミュージシャン、演劇人が集まる街が壊されようとしています。若者や住民、文化人が「街を守れ」と声をあげています。　立花 亮記者



アモーレ下北沢

流行発信地に巨大道路計画

ミュージシャンら立ち上がる

上「アモーレ下北」発売記念のライブで熱唱する志田さん。中「シモキタを守ろう」と、下北沢駅前で署名活動をする「Save the 下北沢」のメンバー。下道路建設予定地付近では、若者がカフェでくつろぎ、買い物を楽しんでいます
※「アモーレ」はイタリア語で愛、愛情の意味

東京・世田谷区の下北沢（しもきたざわ）。迷路のように狭い路地が交錯し、おしゃれな洋服店、雑貨屋などが立ち並びます。「シモキタ」と呼ばれ、若者が訪れるファッションの街です。

数多くの小劇場やライブハウスがあり、松尾スズキさんら劇作家や演出家、ミュージシャンを生み出してきました。

東京都と世田谷区は、幅26メートルもの道路を商店街に通す計画を決定。3月に事業認可されるのではないかと心配されています。道路が完成すれば、商店街は分断され、下北沢の中心部まで車が入ってきます。

買い物にきた女子高校生（17）は、「ちっちゃい店がいっぱいあるから好きです。大きな道路は似合わないと思う」。

洋服店で働く女性（24）も、「ここはミュージシャンや演劇関係の人も多くて、文化的で独特のセンスがあると思います。この景観を変える道路は絶対に通らないでほしいです」。

ミュージシャンの志田歩さん（15）は、CD「アモーレ下北」を12日に発売しました。周辺のレコード店で販売されています。「守れ、守れ、アモーレ下北…」と思いを熱唱します。

志田さんは18年前に下北沢に住み始め、音楽関係者と知り合ったことなどから音楽で生計を立てるようになりました。

「私にとってはいろんな因縁のある街です。お世話になったバーのマスターの遺言で『この街を守ってくれ』と頼まれました。絶対にこのまちを壊すわけにはいかない」

「アモーレ下北」のCDジャケットをデザインしたデザイナーの井須多恵子さん（26）は、ホームページでこの運動を知り、参加しました。

「ファッションが好きで、シモキタに来るようになりました。道路建設を止めるために何かしたかったので、お手伝いしています」と語ります。

下北沢を愛する人たちは「Save the 下北沢」を結成し、道路建設反対運動をすすめています。パレードやライブイベントなどを行い、1万5千人分もの建設反対署名を集めました。

この問題を議会で追及してきた日本共産党の中里光夫世田谷区議は、「道路整備が街の高層ビル化を招く危険性もあります。街を壊して道路を通す必要はありません。住民の意見を聞き、道路計画は廃止を含めて見直すべきです」と話します。